

2022年度 RC・ISO・運輸安全マネジメントの取組み

MGC アドバンス 2022年度経営方針

新しい総合型企业として一歩進める。事業相互の知見の吸収により専門技術に変化を加え、更に各々の技術力の組合せによりプラスワンのサービスを提供する。健全な経営を継続し企業としての基盤となる従業員、顧客、社会からの信頼を得て、カーボンニュートラル(CN)、デジタルトランスフォーメーション(DX)といった新たな社会的課題にも挑戦する、変化に躊躇しない企業文化を堅持する。

基本理念

- ・ MGCグループの一員として、顧客や地域社会と共生し発展します
- ・ 従業員が働きやすい環境のもと、安全で質の高い事業活動を営みます

1. 事故・労働災害の撲滅 120%の安全を目指す

- ・安全環境の整備 … 根本原因の掘出し、対策に集中。
守れるルール作り、起こさせない設備への改善を対策とする。
- ・危険の認識 … 全ての場所に常に危険が存在する。
危険を恐れる事、危険を覚知する事を最も重要な技術として習得
- ・安全活動の推進 … 5S・KYT・指差呼称の徹底、ヒヤリ気かかり提案やリスクアセスメント活動、新規受託業務審査徹底。

2. 業務品質の向上

- ・顧客満足の獲得 … 顧客ニーズの収集と的確かつタイムリーなレスポンス、技術力の改善によるサービス品質向上。
- ・業務基準の改善 … 基準の単純化を必須の課題として基準を作成する。
既存の基準も同様に単純化の改善を継続。
- ・製品品質の維持・向上 … 社内で保有する設備管理・保安技術の向上と全社展開での有効活用、検査体制の充実。

3. 人材の確保と育成

- ・新人事制度の運用による業務目標の設定
… 個々の従業員が達成可能な目標設定、目標達成のための協体制作り。
- ・適材適所の配置 … 必要なスキルに見合った人材配置やグループ一体としての新規採用。
- ・教育の充実 … 資格取得の推進、社内・社外教育への積極的参加、意識レベルの向上。

4. 収益の維持改善

- ・製造、運輸、エンジン事業における業務拡充によるコア事業の基盤強化、各部門の連携による新規サービスの開発。
- ・新たな視点での全製品のコストダウン、全部門での設備改善を含めた作業の効率化、省力化。
- ・DX 技術の活用に取り組み、業務の効率化と共に新たな収益源としての芽を育成する。

5. コンプライアンスの徹底と働きやすい職場づくり

- ・法令、社内規則、社会規範等の遵守(自分の行動に責任を持つ)
… 社会からの信用や企業価値の維持・向上。
- ・各種ハラスメントの防止 … 互いに相手が嫌がることはやらない。
- ・働き易い、思いやりのある職場づくり … 相手の気持ちを考えて行動する。

6. MGCグループへの貢献

- ・既存の製造、メンテナンス、運輸の各業務で、新たな分野の業務委託等の顧客に有益な新たなサービスの提案
- ・業務内外での地域への貢献、活動を通じて MGC グループの存在感の地域への浸透を図る
- ・水素燃料電池、再生可能エネルギーの使用等の CN 対応を進め、環境保全への積極的な取組みの姿勢を示す



2022年4月1日
MGCアドバンス株式会社
代表取締役社長

川端嗣二

環境安全品質方針

1 労働安全

安全の確保を最優先に労働災害を撲滅する

起こさせない、予防が全て。日々の危険予知、指差し呼称、作業指示書の確認、ヒヤリ
気がかり提案や定期的な職場巡視、新規・非定常作業における安全審査など危険の抽出
を労働災害の予防に必須の業務技術としてレベルを上げる。

2 保安防災

「安全安定運転」により事故ゼロを達成する

作業環境の整備及び日常・定期的な各種設備点検を徹底し、業務と設備の管理の強化をは
かり安心できる安全を確保する。また防災訓練、緊急連絡訓練等を拡充し災害の拡大防
止を徹底する。

3 環境保全

社会に貢献する環境保全

企業活動と自然環境の保全の協調に取り組む。GHG 排出量削減を中心に新しい技術を取り
入れて環境負荷の少ない原材料の調達と設備の採用、廃棄物排出量の最小化、持続可
能な資源の利用を図る。

4 化学品・製品安全

取扱物質に対する十分な教育

SDS の最新版管理と周知、また新規受託品などの取扱い物質についての事前教育を徹底
し、化学製品の取扱いに必要な SDS 教育を効果的に行う。

5 物流安全

物流トラブルの撲滅を目指す

物流トラブルの過去事例紹介、グループ会社との安全情報の共有化や定期的に物流防災
訓練を実施し未然防止につなげる。また輸送におけるトラブル状況を勘案し、必要に応
じて外部監査等による指導強化をはかりトラブルを削減させる。

6 社会との対話


ステークホルダーからの信頼醸成と MGC グループの社会的評価の向上

ステークホルダーと円滑なコミュニケーションで相互に安全意識を高め、社会貢献活動
への参画・支援を通じ、社会からの信用や企業価値の維持・向上をはかる。

7 RC 全般

法令遵守、職場環境の改善、CSR・コンプライアンスの実践、LINK 活動

環境及び安全に関する法令、社内規則、社会規範等を遵守し、従業員が健康で働き易い、
思いやりのある職場を維持する。またステークホルダーと事故・災害情報等を共有し事
故・災害の未然防止を徹底する。

 MGC アドバンス株式会社

2022 年 2 月 2 日

代表取締役社長 川端嗣二

● 2022 度 運輸課 RC・ISO 活動目標

コード	部の活動方針	目標
労働安全衛生	なぜルールが出来たのか、決めたこと、決められたことを確実に守らせるための教育を行い、労働災害ゼロを目指す。	労働災害ゼロの継続 (2021 年度発生ゼロ件)
保安防災	設備の法定点検、定期点検、自主点検を確実に実施し、業務と設備の管理強化を図り安心できる安全を確保する。	法定点検・定期点検・自主点検の確実な実施
環境保全	信頼される物流サービスを提供していく企業として、環境問題への取り組みを経営課題と認識し、地球環境の保全と環境負担の低減に努める。	グリーン経営活動の継続
化学品・製品安全	取扱い物質についての知識を深めるべく、計画的に化学製品の取扱いに必要な教育を効果的に行う。	取り扱い物質の最新版 SDS の把握と情報を伝達し教育の実施。
物流安全	過去の物流トラブルの再発防止を図るべく、課員及び協力会社との安全情報の共有化を図る。また、計画的に外部監査による指導強化を行うことでトラブルを削減させる。	車両事故ゼロの継続 (2021 年度発生ゼロ件)
社会との対話	顧客、元請 5 社連絡会、協力会社との円滑なコミュニケーションで相互に安全意識を高め、安全・品質の向上を図る。	
RC全般	事業種ごとの関係法令の見える化を行い遵守することにより、健全な事業を継続する。	運行関係の法令遵守と安全評価基準の見える化

● 2022 年度 会社基本方針及び目標の周知方法

1. 職場懇談会にて従業員全員に周知する
2. 社内各所へ掲示する
3. 毎年 3 月・9 月 基本方針等を繰り返し周知する
4. 本「RC・ISO・運輸安全マネジメントの取組み」を、自社ホームページに掲載する

● 2022 年度 わが社における品質・安全に関する情報交換方法

	活動項目	実施
1	安全衛生委員会	毎月
2	品質管理委員会	1 回／年 以上
3	内部統制委員会	1 回／年 以上
4	コンプライアンス委員会	1 回／年 以上
5	防火管理委員会	1 回／年 以上
6	リスク管理委員会	1 回／年 以上
7	朝礼	毎日 (過去事例の再確認)
8	職場懇談会	毎月
9	安全運転教育	8 回／年 (12 項目)
10	スキルアップ教育 (安全運転)	適宜
12	品質・安全教育	毎月 品質報、安全報
13	グリーン経営教育	4 回／年 (4 項目)
14	高圧ガス保安教育	7 回／年
15	顧客とのコミュニケーション	12 回／年 (MGCとは毎月) (他社は適宜実施)
16	協力会社とのコミュニケーション	1 回／年 (必要時適宜実施)
	① NU 品質・安全月報の発行	毎月
	② 緊急速報の発行	適宜

● 2021 年度 わが社（運輸課）の安全に関する目標達成状況

目 標	結 果	達成状況
労働災害 ゼロを目指す。 （前年度 〇）	〇件	達成
車両事故 ゼロを目指す。 （前年度 〇）	〇件	達成

● 2021 年度 わが社（運輸課）の安全に関する反省事項

※ 2021 年 9 月 15 日（ヒヤリ事故）

客先構内にて荷卸し後、「安全マグネットシート」に基づき車両の周囲を確認し発進したが、先方設備のアースリールが所定の場所に取り付けられていたことに気づかず、結果、取外すのを忘れアースリール線が根元から抜けた。（損傷するところだった）

● 2021 年度 反省事項に対する改善方法

※ 荷卸しを終えたら「マグネットシート」を手に持って各項目を指差呼称で点検し、異常がないことを確認したのちに出発すること。
（車両を「の」の字に廻って、各接続部等の取外したかなどを確認する）

● 2021 年度 わが社の事故に関する情報

自動車事故報告規則に定める事故	〇件
-----------------	----

2022 年 4 月 1 日

MGC アドバンス株式会社

代表取締役社長 川端 嗣二